

番組審議会

第16回 BS よしもと 番組審議会

■開催年月日: 2025年10月31日 (金)

■開催場所: BSよしもと株式会社 会議室

■出席した委員 (敬称略) 7名中7名出席 * あいうえお順

大原鶴美 (プロフェッショナルコミュニケーションスキルマスター・トレーナー)

川上和久 (麗澤大学教授)

久保博 (一般財団法人日本スポーツ推進機構 (NSPO) 理事)

品田英明 (元味の素 AGF 株式会社代表取締役社長)

清水義次 (建築・都市・地域再生プロデューサー/
株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役)

竹中ナミ (ナミねえ) (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長) * リモート参加

山田奈美香 (山田・尾崎法律事務所弁護士)

■議題

1. 開会の辞 (審議委員長)
2. 開会の挨拶 (稲垣社長)
3. 編成関連の報告 (10月改編他編成動向、ジャンル種別・比率報告)
4. 視聴者からの反応の共有 (コールセンターレポートより)
5. 番組審議
対象番組
 - ・「戦後80年特番 第一部 あの日の空へ 特攻隊の声を聞く」
8月10日(日)午後5時放送分
 - ・「戦後80年特番 第二部 舞台『Mother 特攻の母 鳥濱トメ物語』
8月10日(日)午後5時30分放送分
6. 閉会の挨拶 (泉取締役)
7. 閉会の辞 (審議委員長)
8. 事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長稲垣より、「10月13日に大阪・関西万博が終了したが、月曜日から木曜日まで、連日『発信 Live ジモトノチカラ!』にて現地からの生放送を行い、閉幕日に放送した特番では、過去最高の視聴率を記録することができた。こ

れからの年末年始の特別編成にも注目いただきたい。」という挨拶に続き審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1. 編成関連の報告

○金田専務兼編成制作局長より、10月以降の改編及び編成動向について、以下のポイントについて説明を行い、理解された。

① 今後の改編の予定について

長年にわたり放送中の1社提供の放送時間について、スポンサーの要望で枠の移動が必要となるため、これに伴う前後枠の各番組の放送時間の変更も必要となり、出演者の裏被り等を急ぎ調整中である。

また、通販番組の引き合いが順調に推移し、過去最高の売り上げとなっており、CMと通販をあわせた放送時間数が、認定要件の30%規制を超えないことを意識した編成が必要となっている。

② EXPO2025 大阪・関西万博特番について

10月13日のEXPO2025大阪・関西万博閉幕に合わせて、月曜日から木曜日までの13時から放送中の地方創生生番組「発信 Live ジモトノチカラ!」の特番として、3時間の万博閉幕スペシャル番組を、全曜日の出演者を集合させ万博会場から中継を行う形で放送した結果、これまで放送を行った地方創生の生放送番組としては、レギュラー放送回の約4.5倍に値する開局以来の最高視聴量を獲得することができた。

③ 年末年始特番のプランニング状況について

現在、年末年始の特別編成を最終調整中で、今年度は、12月29日月曜日から1月4日日曜日の7日間の編成とし、恒例となっているBSよしもとの人気番組である吉本新喜劇等のデイトムの帯編成を中心に、人気レギュラー番組等の年末年始版の新作も編成することを計画中である。

審議委員からは、通販の引き合いが以前よりも増えている理由について質問があり、藤澤営業局長より、短尺通販の引き合いが増えている現状を説明し、理解された。

○続いて、編成運行責任者より、本年4月から9月までのジャンル種別・比率について、放送実績データを基に報告を行い、CM放送時間総量の設定基準が基準である30%以内に保たれていることを説明し、全審議委員に確認された。

2. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、本年7月～9月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に確認された。

3. 番組審議

対象番組：

「戦後80年特番 第一部 あの日の空へ 特攻隊の声を聞く」

8月10日(日)午後5時放送分

「戦後80年特番 第二部 舞台『Mother 特攻の母 鳥濱トメ物語』

8月10日(日)午後5時30分放送分

初めに、番組チーフ・プロデューサーから番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行の形で審議を行い、各審議委員から寄せられた質問については番組チーフ・プロデューサーが応答する形式で番組審議を行った。

各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

- 戦後80年として放送すべき素晴らしい内容の番組である。
年に一回程度は、このように戦争と向き合う機会を与えることは有意義である。
- 第一部が元特攻隊員へのインタビュー、二部が舞台、そして最後に実際の取材で閉めるという構成も良かった。
インタビューの中で、シベリア抑留の貴重な「生の声」を証言として聞くことができ、衝撃を受けた。
- 一部・二部を通して3時間以上の尺であったが、長さを感じさせない、感銘を受ける内容であった。
第一部のインタビューは、実際には1時間以上にも及ぶ話であったそうだが、番組としては30分で適度であったと思われる。
- 第二部の舞台は、原作もあり、ロングランのものであるためすでに知られた内容ではあるが、出演者の気持ちが入り、迫力のある演技で見応えがあった。
- 米軍兵の英語のセリフが原語のままになっていたが、理解できる内容なのであのままで良かったのではないかと思った。

- カメラワークが良く、舞台で使用されている楽曲、エンディングの実際の当時の写真を使用するような全体の演出が良かった
- このような公演を吉本がサポートしていることは良いことなので、今後も継続して欲しい
- 本番組の企画者でもあり、主演のペナルティ ワッキーが自身の闘病を経た経験から命の尊さをかみしめているようで、説得力があり、適役であった
- より多くの視聴者、特に若い視聴者に見てもらう工夫が必要である。
例えば、番組名の工夫、そもそも特攻とは何か、どのような存在だったのかの説明などがあると、より入りやすいのではないかな。
- インタビューでは地図の掲示、舞台では役者の名前や役名の掲示があると、よりわかりやすくなり良いのではないかな。
- このような有意義な番組は、コンテストなどにエントリーしてみてもどうか。

上記の番組についての意見と質問に対し、番組のチーフ・プロデューサーより、企画から取材、舞台でのカメラワークに至るまで、ペナルティ ワッキーの意向が反映されており、実際には放送時間の倍以上の取材であったことを説明し、年表、出演者、地図などの情報をテロップで補足することについてのご意見を今後に活かし、より幅広い年齢層の視聴者に見ていただくことを目指したい旨をコメントし、全審議委員に理解された。

また、コンテストの応募については、民放連の準会員であるため応募資格が無い賞もあることが金田専務より説明され、理解された。

4. 閉会の挨拶

最後に事務局より、「第73回民間放送全国大会(名古屋)」配信のご案内」の共有等の連絡事項に続き、泉取締役より閉会の辞として、「発信Live ジモトノチカラ！」内の「市町村長うた自慢まち自慢」のコーナーを「ニッポン全国ふるさと自慢」にリニューアルしたこと、吉本興業主催のサイト「FANY」でふるさと納税を始めたこと等、地方創生についての活動近況を報告した後、審議委員長の閉会の辞をもって審議会を閉会した。

■現在のBSよしもと審議会委員（敬称略）

※2025年10月現在

川上和久	（委員長／麗澤大学教授）
大原鶴美	（副委員長／プロフェッショナルコミュニケーションスキルマスター・トレーナー）
久保博	（一般財団法人日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）
品田英明	（元味の素AGF株式会社代表取締役社長）
清水義次	（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）
竹中ナミ（ナミねえ）	（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
山田奈美香	（山田・尾崎法律事務所弁護士）

以上